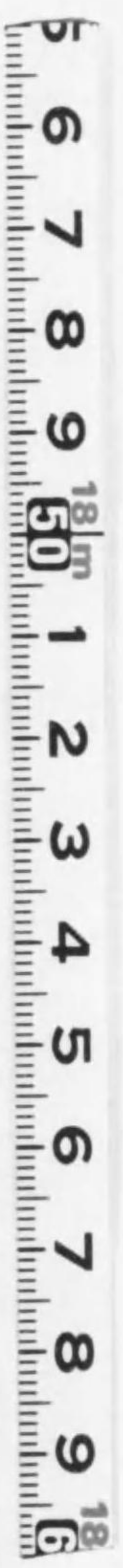


山梨家八十二秘方

完

特257
735



始



特257

1735

山脇家八十二秘方

目次

○ 本書と山脇先生

試妊方 (大麻稽)

悪阻 (独龍散)

乳腫痛 (甘草)

同 (生栗子)

(五) 同 (好茶、松脂)

(六) 産前後口中腐爛 (班龍丸)

(七) 産後下痢、経閉帶下 (芍薬湯)

六

一

一

一

一

一

一

一



- (八) 血瘤腹痛 (赤丸) 一一
- (九) 血氣頭痛、心胸脇腹痛 (抽刀散) 一一
- (一〇) 血氣頭痛、心腹逆滿 (五靈脂湯) 一二
- (一一) 血積帶下、寒熱咳嗽 (丁香飲) 一二
- (一二) 血積結痛 (香脂丸) 一二
- (一三) 瘀血結塊 (香膠散) 一二
- (一四) 血積腹痛 (膝漆丸) 一三
- (一五) 男女塊癖 (鼈甲湯) 一三
- (一六) 小兒胎毒 (蒼々散) 一三
- (一七) 小兒驚風 (急構飲) 一三

- (一八) 小兒癩症 (新榮丸) 一四
- (一九) 遺溺 (香龍散) 一四
- (二〇) 虻虫 (芟山湯) 一四
- (二一) 癩癩 (蓼蛭散) 一五
- (二二) 狂癩 (白龍散) 一五
- (二三) 男女癖疾 (清中飲) 一五
- (二四) 疝勞 (父順丸、一名義順丸) 一六
- (二五) 勞瘵 (墜狗丸) 一六
- (二六) 停飲 (桃花散) 一六
- (二七) 喘息 (三靈散) 一六

(三八) 同 (茶実丸) 一七
 (三九) 痢疾 (神祐丸) 一七
 (四〇) 同 (独行丸) 一七
 (三一) 噤口痢 (寛中膏) 一八
 (三二) 下血 (伏龍肝散 一名烏龍散) 一八
 (三三) 秘便 (寛中湯) 一八
 (三四) 轉胞 (尿閉) (巴豆膏) 一九
 (三五) 淋疾 (合敏湯) 一九
 (三六) 同 (排膿散) 一九
 (三七) 水腫 (禹功湯) 一九

(三八) 同 (寒瓜子湯) 一九
 (三九) 同 (僊芝散) 二〇
 (四〇) 同 逆滿 (桃花湯) 二〇
 (四一) 同 上氣 (鯉魚湯) 二〇
 (四二) 内攻腫滿 (赤小豆湯) 二一
 (四三) 産後水腫 (琥珀湯) 二一
 (四四) 脚氣衝心 (黑豆湯) 二一
 (四五) 諸氣衝心、吐血 (参連湯) 二二
 (四六) 黄疸 (仙露飲) 二二
 (四七) 黄胖 (鎮神丸) 二二

(四八) 赤眼 (洗塵散)

二二

(四九) 同 障翳 (鉛丹膏)

二二

(五〇) 風眼 (排雲湯)

二三

(五一) 打撲 (生鯽魚、砂糖)

二三

(五二) 湯火傷 (砂糖、辰砂)

二五

(五三) 同 (柿漆)

二三

(五四) 同 (黃雲散)

二三

(五五) 骨鯁 (鷹鷄霜)

二四

(五六) 同 (人瓜)

二四

(五七) 肉中毒 (玉穗湯)

二四

(五八) 微毒 吸烟方 (紫雲條)

二四

(五九) 結毒 頭痛癭瘻 (丹霞條)

二五

(六〇) 微毒 (咸亨丸)

二五

(六一) 微毒 偏枯 (化毒丸)

二六

(六二) 結毒 漏瘡 (白虎膏)

二六

(六三) 諸結毒 漏瘡 (銀花洗方)

二六

(六四) 諸結毒 (玉蒸丹)

二七

(六五) 同 (金花丹)

二七

(六六) 同 (芎黃散)

二七

(六七) 同 (伍寶散)

二七

(六八)	同 下疳骨節疼痛 (輕粉丸)	二八
(六九)	諸結毒 (五物解毒湯)	二八
(七〇)	結毒癰腫 (龍鱗膏)	二八
(七一)	便毒 (消核散)	二九
(七二)	輕粉毒 (銀花煎)	二九
(七三)	痘瘡貫膿 (參耆湯)	二九
(七四)	癰疔 (排毒散)	二九
(七五)	臙瘡 (梅荊湯)	三〇
(七六)	癰疽 (雄鼠糞)	三〇
(七七)	鷺口瘡 (天南星)	三〇

(七八)	床瘡 (南極散)	三〇
(七九)	諸瘡 (登假膏)	三〇
(八〇)	風犬毒 (救急湯)	三一
(八一)	同 (奪命散)	三一
(八二)	厲風諸血毒、久淋 (再造散)	三一

本書と山脇先生

山脇家に於て最も有名な人は、尚徳、及び陶、即ち東洋及び東門の両先生であるが、其の父祖たる玄心及玄修の両先生も、亦何れも一代の名医である。玄心は後水尾天皇の命を奉じて、勅撰養壽録を撰した人であり、玄修は俗説ではあるが、京都誓願寺如來の治療を以て、東洋は刑屍の解剖を以て、東門は吐方及刺絡等を以て特に名あること、申す迄も無い所である。本書（八十二秘方）は天保七年丙申、小松奇山が京師遊学中に寫したものと、及び叢桂亭（原南陽）の藏本（写本）とに據ったものであるが、若干東門の意見が挟まれて居る所から推し、又之を養壽院方函等に比較して、本書が山脇家々秘のものであったらうことは、大体肯かれる次第である。唯本書の標題迄も山脇家につけたものか、それとも門人等の命名したものであるか

は判然しないが、叢桂亭の藏本には、單に方函としてある所から觀れば、これは大方内人等の附けたものであらう。兩書共所謂魯魚焉馬で、誤字や脱字が可なり多かつた爲め、考訂には相當弱らされたが、先づ以て今回は、大抵差支無いやうになつた事と信ずる。だが何と言つても匠三世の家である。流石に奇方妙劑に富めることは、其の門流とは云ひ余、水戸の侍医原南陽が、其の若干を叢桂亭医事小言や、解毒奇效方等に収録せるばかりで無く、他の諸家も亦概ね之を引用し、應用して居るのに見て、能く了解することが出来る。要するに運用は其の人に在るのだが、私は和漢医学社同人として、生々堂医譚に次ぎ、本書を世の實際家及び篤学家に提供し得たことを悦ぶ者である。山脇家諸先生の傳記は、餘りに世間に知られては居るが今左に其の要を摘載して諸先生方の面影を認ぶこととする。

山 脇 玄 心

通称道作、楠正成の庶流で、近江の人、山脇松雪の長男である。既に長じて医を曲直瀬玄朔に学び、業を京師に開いた。元和元年中和門院不豫、乃ち召されて茶碗に入り、尋で侍医となった。寛永十四年法眼に叙し、二十年法印に進み、養壽院の號を賜はつた。五朝に歴仕して、最も後水尾天皇、東福門院の眷寵を得、嘗て後水尾天皇の勅を奉じて、勅撰養壽録を著した。別に原病式集解、医方捷徑等の著がある。延宝二年十月歿した。享年八十有二歳である。(日本医学史、大日本人名辞書、医家人名辞書)

山 脇 玄 修

通称道立、三宅宗理の男で、玄心の甥である。玄心に子無きを以て、養はれて其の嗣となり、延宝四年法橋、翌五年法眼に叙せられ、能く家声を挙げた。著書には本

草附方分類、医方隱隱等がある。享保十二年十月二日歿した。享年七十有四歳である。(医家人名辞書)

山 脇 東 洋

名は尚徳、字は玄飛、又子樹、初め移山と號し、後東洋と改めた。本姓は清水氏、丹波龜山の医、東軒の長子であるが、出でて山脇玄修の家を嗣いだ、依つて山脇氏を冒した。幼にして穎悟、句讀を渡辺葭谷に受け、年十三にして能く文を属し、好んで修辭を爲し、又医を玄修に学んで奇愛せられた。年十八の時父の喪に遇ひ、玄修には子が無かったので、遂に其の養子となった。幾何も無く玄修も亦歿したので、二十三歳にして養父の業を継ぎ、改めて後藤良山に就て古方を修め、香川修庵、吉益東洞の諸家と共に、古方の四大家と称せられるに至つた。

宝曆甲戌の歳、閏二月七日のことである、偶々刑屍を郊外に解いて其の眞を觀、依つて旧説の妄を弁じて回志を作つたが、之が世に名高い所の「藏志」であり、實に我国親臘回志の嚆矢である。是に於てか東洋の名海内に洽く、來つて学ぶ者数百人、年を逐うて門徒が益々進んだ。

是より先、官医は娼妓の治療をせなかつた、併し衆議を排して、東洋に至つて、始めて之を行ふことにした。凡そ此の如きの類、務めて回習を洗滌し、世の耳目を變じて其の志気を激發した。東洋風姿俊爽、顔眄人を動かしたが、傍ら擊劍を好み、又頗る雅量に富んだ。即ち永富独嘯庵が嘗て東洋に謁し、適々其の愛する所の茗器を見て、親玩良久しく、伴つて地に墜して之を破つたが、東洋の神色自若として、談論故の如くなので、独嘯庵も其の雅量に服したと云ふ。

宝曆十二年八月六日、鷹司右府の病を療せんが為め其の殿に宿し、夜半俄に病を得て、同八日（一説十三日）遂に歿した、享年五十有八歳である。著書には尚養壽院医則、濟生餘言等があるが、唐の王焘の外臺秘要方の翻刻に対しては、特に猿蓑時服等を賜はった。（日本医学史綱要、医家人名辞書、日本人名辞書、皇国名匠傳）

山 脇 東 門

名は陶、通称玄侃、字は大鑄、東門又方学居士と號した。東洋の第二子である。宝曆二年父の官職を襲ひ、明和三年法眼に叙せられた。年十七の時父の命を受けて、永富独嘯庵と共に、奥村良筑に就て吐方を学び、京に歸つて大に其の術を行った。是に於てか始めて古方に汗吐下の三法が備はるに至った。明和八年父の遺志を継いで一婦人を解屍し、以て解剖が医学の基礎たることを唱道したが、又西洋の術を吉

雄氏から傳へ、三稜針を以て瘀血を採ることを称揚した。天明二年七月病人で歿した、享年僅に四十有七。著書には東門隨筆一卷があるが、其の筆致を見れば、如何に自ら持することが高かったかの一端が窺はれる。（日本医学史綱要、杏林叢書、日本人名辞書其他）

皇紀二五九五年 昭和十年九月

石 原 保 秀 識

山脇家八十二祕方

(一) 試妊娠方

大麻稽

右一味、為霜、每服五分、日二、白湯送下、七日後不見經者、是妊娠也、否者非。

(二) 治惡阻嘔逆不已者方

獨龍散

伏龍肝

右一味、極末、每服五分、日數次、白湯送下、產後嘔逆者亦

佳也。

(三) 療_二妬乳腫痛_一方

甘草(炒末)

右一味、蜜調、塗_二于痛處_一。……(妬乳ハ乳汁鬱滯ニ因ル腫脹)

(四) 又方

生栗子

右一味、薄片焙乾為末、水研勻塗_二之_一。

(五) 理_二婦人乳腫痛_一方

好茶(末) 松脂(各等分)

右二味、以_二煎茶解之_一、塗_二腫上_一。

(六) 療_二產前後口中腐爛者_一方

班龍丸

鹿胎子(一具燒為_レ霜)

右一味、糊丸、空心白湯送下、五日服尽。

(七) 治_二產後下痢、及經閉帶下、上氣足冷、時々發熱、

乾噫食臭、口腹妨脹、雷鳴切痛不已者_一方

芍藥湯

芍藥(三克) 水莎(三克) 干姜(五分) 昌陽(四分) 國老(三分) 縮

砂(三分)

右六味、以_二水二合_一、煎取_二一合_一、不過五日、下痢漸減。……(水莎

八香附子、昌陽、八石菖蒲……叢桂亭藏方昌陽無シ、丁香アリ……國老八甘草

(八) 治血痼腹痛方

赤丸

生漆 大黃 麵粉 (各等分)

右三味、蜜和調、為丸、每服五分、白湯送下、日二、夜一、發赤疹為知。

(九) 治諸血氣、頭暈、頭痛、心胸脇腹刺痛、咳嗽不止者等方

抽刀散

五靈脂

右一味、細末、白湯飲下日數次、甚者童便送下、產後血暈發

狂、惡露不下者大驗。

(一〇) 治婦人血氣頭痛、耳鳴眩暈不能起、心腹逆滿者方

五靈脂湯

水莎 (一莖半) 昌陽 (八分) 紅花 (五分) 鷄舌 (三分) 五靈脂 (研三

分、或五分)

右五味、以水二合、煮取一合、去渣、日二劑或三劑、若大便燥結者、加大黃、隨輕重緩急……(昌陽、八石菖蒲、鷄舌、八鷄舌香、即子)

(二) 理婦人血積、或帶下吐沫、上氣腰冷、時寒熱咳嗽者方

丁香飲

木莎(一钱) 乾地黄(八分) 當歸(五分) 川芎(三分) 昌陽(八分)

丁香(三分) 紅花(三分)

右七味、以水二合、煮取一合、日二劑或三劑、服後發熱倍前者為知。

(三) 理血積結痛方

香脂丸

阿魏(二钱) 乳香 沒藥 丁香(各三钱)

右四味、為末米糊丸、每服一钱、日三、食遠白湯或温酒送下。

(三) 理男女積血瘀穢結塊方

香膠散

香附子(半炒半生) 阿膠(炒) 反鼻 大黃(各等分)

右四味、為細末、每服一钱、白湯送下、隨症多少。

(四) 治婦人血積腹痛方

膝漆丸

牛膝 乾漆 蕎麥(各等分)

右三味、細末、用醋杵、和為丸、每服一钱、日三、食遠白湯送下、温酒亦得。

(五) 療男女塊癖方

鼈甲湯

鼈甲 桃仁(各二錢二分) 虎杖根(七分) 大黃(二分)
右四味、以水二合、煮取一合、日二劑、數日後從大便、去黑
物垢毒、香膠散兼用甚良。

(一六) 治小兒胎毒虫積咳嗽不已者方

蒼蒼散

蛤粉 青黛(各等分)

右二味、盛絹囊、漬白湯數嚥之、劇者加秋海棠或積雪草等之
生汁少許、又絲瓜水重湯漬亦良。……(積雪草ハ連莖草、即チ「かさど
ほし」……)

(一七) 療小兒驚風、痰毒衝胸、上竄搐搦不已方

急構飲

積雪草(生用) 蕞菜(同上) 青黛(極研)

右三味、先杵積雪草、蕞菜、絞取汁各半合、入青黛五分、拌
勻、數灌之、加牛黃亦良。

(一八) 理小兒痲症黃瘦者方

新榮丸

蟾頭(炙令黃色) 鱉頭(炙令黃黑) 蘆薈(各二錢) 胡黃連 五倍
子 苦楝皮 夜明砂 雀羅(一名天紫子、各五錢) 熊膽(一錢) 雄
黃(二錢) 麝香(五分) 青黛(三錢)
右十二味、細末、以糯米飯丸麻子大一、一歲兒每服一丸、日

三、米飲送下、隨年壯、用意增之。……（鱈ハ鯉ニ同ジ、和名たうなぎ、ナラン）

(一九) 治遺溺方

香龍散

反鼻(十錢) 丁香(二分)

右二味、細末、臨卧白湯送下、後温酒任性、凡自七歲至十歲、每服五分、自十歲至十五歲、隨年壯、每增一分至一錢、十五歲以上、每服一錢、温酒送下、患酒者白湯亦可、不過二十日而瘥。

(二〇) 下蛭虫穢物方

芟山湯

鵝鴟菜(二錢) 大黃(二分或八三分) 蒲黃(二分) 苦楝根皮(三分)

右四味、以水一合半、煮取一合、空心頓服、日一、夜一、小兒加意減之、又大便秘者去大黃。

(二一) 治癩癩方

蓼蛭散

馬蓼(陰干) 水蛭(各等分、燒存性)

右二味、每服六分、食遠白湯送下、日二、夜一、以穢物下為知、大人小兒多少從權、病差後、試與菑蕩食之、復發者、作劑如前。

(三三) 治狂癲方

白龍散

白刀豆 米粉(各十錢) 反鼻(三錢)

右三味細末、每服一錢、日二、夜一、食遠白湯送下、含不得飲者、冷水亦得、二三日後、喜睡者為驗、凡初發四五十日、狂躁者用驗、數歲者弗效。

(三三) 療男女癲疾、上氣嚮冒、臍下無力、忪悸眩暈、羞明怕眩、細慮纖憂、悲怒無常、時為狂癡態、或泄滑不止者方

清中飲

蕞菜 草三稜(各一錢)

右二味、以水二合、煮取一合、日二劑、服後小便快利者、大驗。

(三四) 療疝勞初發、咳嗽發熱、盜汗黃瘦者方

父順丸(叢桂亭藏本、及醫事小言、義順丸)

茶毘處煤(七錢) 甘草(三錢) 麝香(二分)

右三味、糊丸、食遠黃耆湯送下十五丸以上、每服七分、日二、夜一、已下用意減之。

(三五) 療勞瘵初發、諸症未具者方

墜狗丸(叢桂亭藏本、墜苟丸、醫事小言、水狗丸)

水狗 (去皮毛腸胃、燒存性)

右一味、細末糊丸、每服三分、日二夜一、食遠黃湯送下。

陶 (山陽東内) 按、疝旁諸症數用大驗、自五歲至十二三歲、每服

二分、日二夜一、劇者用意增之。

(二六) 下停飲方

桃花散

白桃花 (未開者)

右一味、為末、空心白湯、頓服二錢、後溫酒任性、頃刻當瀉

水、患宿酒者、立驗。

(二七) 喘急潤咽喉墜痰方

三靈散

茶末 (五錢) 黃藥子 麵粉 (各半錢、或二錢半)

右三味、合調、每服一錢、日二、夜一、空心白湯送下。……

(牧野博士曰ク、黃藥子ハ虎杖ト同一ナリ、木村康一氏曰ク「にが何首烏」ニ似タルモノナリ)

(二八) 喘息救急方

茶實丸

茶實 (生熟者佳) 百合根 礬石 (各等分)

右三味、研勻為丸、每服一錢、空心白湯送下。

(二九) 理痢疾方

神祐丸

阿片(二分) 黃連 沉香 縮砂 黃柏(各五分) 甘草 木香(各

三分)

右七味、細末、小麦麩丸如綠豆大、辰砂為衣、冷水飲下一丸、日三、凡毒盛者、初二三日、隨其輕重施三黃承氣之輩、候毒稍退、而後用此藥、若方其毒盛施之、亟當時痢已熱解、恐後發塊癖、痿癈、腫脹等之病、慎不可漫用也。

(三〇) 療下痢不已者方

獨行丸

黃蘗

右一味、糊丸、每服一芰、食遠白湯送下、日二、夜一。

(三一) 療噤口痢、裏急後重甚者方

寬中膏

三年酒(三合) 冰糖(六錢)

右二味、入土鍋中、緩火煮令如飴、數服之、半日許、行減、穢物大下、數日而痊、大驗。

陶(山陽東門)按、凡痢病熱甚、行數者初用三黃湯、過二三日或四五日、復方有此症、則宜用此藥、不然則恐後有他患矣、或其初發、其人体弱氣乏、腹中拘急、方其用瀉毒劑、攻擊難堪、噤口益甚、諸藥不驗者甚佳、大抵此藥至寬中、医者宜精審明辨、以不失其機也。

(三二) 理下血一方

伏龍肝散 (叢桂亭藏本、烏龍散)

百草霜 伏龍肝 (各等分)

右二味、白湯送下、日數次。

(三三) 治腹裏拘急、大便燥結、或祕難者一方

寬中湯

蚕豆 (一考炒、令黃黑) 糖霜 (二錢) 鷄子黃 (一枚)

右三味、先取鷄子黃溶化、內糖霜、和令相得、拌勻、別以水

二合、煮蚕豆、取八勺、去滓入前藥中拌勻、臨卧食遠頓服、

數日後、氣降腹緩、大便快通、老人患便秘者、常服大佳也。

(三四) 理轉胞一方

巴豆膏

巴豆 (五分) 田螺肉 (一匙)

右二味、共搗成膏、和勻、攤一寸半円形紙、貼臍下一寸五分、

別作三寸円形紙、膏邊覆之合安、貼痛劇者尤驗。

(三五) 理淋疾疼痛者一方

合歡湯

合歡皮 (三錢半) 大黃 (五分)

右二味、以水二合、煎取一合、日三劑。

(三六) 右同

排膿散

合欬皮 滑石 虎杖 甘草(各等分)

右四味、為末、每服一錢、食遠白湯送下、日二、夜一。

(三七) 療水腫方

禹功湯

赤小豆(四錢) 商陸(三錢) 木通 猪苓 冬葵子(各一錢)

右五味、以水二合、煮取一合、日二劑或三劑、氣急者先與甘遂丸備急丸輩、而後用此湯。

(三八) 理水腫方

寒瓜子湯

寒瓜子(三錢) 楮白皮(二錢半) 商陸根(三錢) 小麦(二錢)

右四味、以水二合、煮取一合、日一服。

(三九) 右同

僂芝散

冬瓜

右一味、重三斤者、開頭填滿小豆四合、燒為霜極篩、每服一錢、日三、食遠白湯飲下、並飲食中內之尤妙。

(四〇) 治水腫逆滿者方

桃花湯

白桃花(二錢、未開者尤佳) 大黃(二分)

右二味、以水二合、煎取一合、日二劑、或三劑、瀉水如注、尤效。

(四二) 療水腫上氣、引渴脈大者方

鯉魚湯

活鯉魚(一尺者、去腸洗淨)

右以水六合、煮至三合、去鯉魚、服一合、日二、夜一、凡服用漆器、生柚皮、独活芽、山椒等、隨嗜好入之、為避腥臭故也。

活鯉魚、以長一尺者為律、微出尺不必拘也、但須取活強者、慎勿用死弱者、更無效、煮時不去鱗腸、完煎可也、若患苦味

者、去腸亦可也、用樸昆布、以長一尺五寸者為律、微出尺不必拘也、但須取海上裏未着手、不見風日、白霜不落、厚而黃赤者、煮時切為三四枚、直煮可也、勿水洗、水洗去鹹味、則無效。

(四三) 治諸毒內攻腫滿方

赤小豆湯

赤小豆(五匁) 麻黃(八錢) 丁香(三分) 反鼻(五分、細粒) 猪苓(七匁)

商陸(三匁、生用) 大黃(二分或八三分)

右七味(一方更木通八分アリ)、以水三合、先煮赤小豆、減一合、內諸藥、煮取一合、去滓溫服、日二劑或三劑。

(四三) 治產後水腫、或諸毒生腫者方

琥珀湯

琥珀(二錢) 高陸(二錢生用) 丁香(三分) 反鼻(五分細挫) 猪苓(七分)

右五味、以水二合、煮取一合、去滓溫服、日二或三。

(四四) 治脚氣衝心周身洪腫者方

黑豆湯

黑豆(去皮八錢) 桑白皮(二錢五分) 檳榔子(二錢五分) 郁李(二錢)

右四味、以水四合、先煮黑豆、減二分、內諸藥、煎取一合、日三服。

(四五) 治諸氣疾衝心、直視、煩悶或吐血不止者方

參連湯

人參 黃連(各五分、或一錢)

右二味、以水二合、煎取一合、少加熊膽汁亦妙也。

(四六) 治黃疸方

仙露飲

鼠莽(陰乾) 昌陽(各七分)

右二味、以水二合、煎取一合、去滓、日二劑。

(四七) 治黃胖病、氣逆胸動、短息不能步、小便不利者方

鎮神丸

鐵砂(七克) 蕎麥(三克)

右二味、糊丸、每服八分、日三、食遠白湯送下、兼治下血家腹中生塊、動氣不得行步、足爪反裂者。

(四八) 治赤眼方

洗塵散

礬石 黃蘗(各等分)

右二味、盛絳囊、浸湯中、淋眼中、日數次。

(四九) 療一切赤眼、及障翳不多日者方

鉛丹膏

巴豆(極研) 鉛丹(各等分)

右二味、以麻油及蜜少許和勻、塗顯會、乾換之、二三日稍覺燥痒、隨發細胞、是其候、不過七日效。

陶(山脇東門)按、痘毒入眼、七十日內者極驗。

(五〇) 療風眼方

排雲湯

車前子(二克) 黃連 黃芩 大黃 甘草(各二分)

右五味、以水二合、煎取一合、日二劑、小便利為知。

(五一) 打撲方

生鯽魚 砂糖

右二味、先鯽魚去腸骨、或不去、搗為泥、次加砂糖、拌勻、

敷患所，亦瘥骨折。

(五二) 治湯爛火傷方

黑砂糖(十兩) 辰砂(一匙)

右二味、煉調塗患處、隨手愈。

(五三) 又方

柿漆一味、敷患處、立驗。

(五四) 又方

黃雲散

黃蘗 鷄子(黃白並用)

右二味、黃蘗二匁、研勻攪鷄子一箇、為餅子、烈日暴乾、研

為細末、平日貯之、臨時水和、令如泥塗之、痛立止、明日不見痕、尤神驗。

(五五) 骨鯁方

鷓鴣霜

右一味、以管吹咽中、立去。

(五六) 又方

人爪(一撮)

右一味、以水一合、煮取五勺頓服、自然失之。

(五七) 理獸魚肉毒、頭痛寒熱、面紅腫、或遍身發赤斑者

方

荊芥（一錢半） 橘皮（二錢）

右二味、以水二合、煎取一合、日三服。

（五八）理微毒凝集上部者吸烟方

紫雲條

大麻稽（五錢、燒為灰） 朱砂

右二味、研勻、以紙為管、長八寸、以藥末內其中、捻其兩端、以紙管、植於爐灰中、火於管頭、以紙幅方五寸者卷之、令上孔稍窄、下孔稍寬、如竹筍形、以寬所冒處、覆於紙管上、病人口中含冷水、以卷紙窄處、插入鼻孔、以氣吸其烟、數吐其冷水、更含新水、水煖則換、日一夜、左右各一管。

作紙管法、以紙為條幅一寸、糊其一边、平鋪地上、糊處向外、擇竹管圍二分許者、頭末因輟管、令繞起紙边糊處、逐管轉自貼合而起、此法甚妙。

（五九）理上部結毒、頭痛癭瘻、及咽喉腐爛者方

丹霞條

鉛（二錢八分） 水銀（二錢） 朱砂（二錢） 沈香（二錢） 人參（五分）

右五味、先盛鉛土盞、上火鎔化、內水銀、柳箸拌令相和、傾注于紙上、研候如泥、入朱砂沈香人參等之末、三味和調、二錢四分、填貯紙管、燃火吸烟、晝夜二次、如紫雲條法、以十日為一劑、此方甚安、驗與粉劑瞑眩者、大異也。

(六〇) 療微毒方

咸亨丸

薰陸 胡桃肉(炒令焦黑、細研) 槐花(炒令微黑) 大黃(炒令焦黑、各二十莖) 輕粉(五分)

右五味、別炒胡桃、槐花、大黃等、次炒薰陸、候其鎔沸、爇黑、內槐花、拌取出、與大黃同搗篩、胡桃細研、與輕粉並諸藥合調糊丸、服後方送下、土茯苓(七莖)、萎蕤(三莖)、以水五合、煎取三合半、空心以湯一合、送下丸藥五分、餘湯二次服盡、病重者服八分或一莖、數日後口中欲腐爛者、即減服從前法。陶(山陽東門)按、此藥不拘必常法、用解毒劑送下亦可、惟宜量

其輕重表裏強弱、以左右收功也。

(六一) 療微毒沈深、兼理偏枯及一切痼毒、腹痛等方

化毒丸

薰陸(一莖) 大黃 鷄冠雄黃 亂髮灰(各三莖) 生々乳(二莖)

右五味、糊丸、辰砂為衣、每服一分、日二、夜一、食遠稍冷湯服、病重者、日用至五六分、服法依前日、後寒熱如感風寒、一身發赤斑者大良、蓋此藥酷毒最甚、得熱猛、飲冷消、若服後覺四體發熱懈惰無力者、煮綠豆冷飲立定、或服水亦佳、宜審察其虛實淺深、慎勿謾用、切忌房勞怒悲、酒酢及熱飲生冷等、若犯此等物、不得效、其害亦不淺鮮矣。

白虎膏

(六二) 療一切結毒、漏瘡淹不愈者方

輕粉(二錢五分、極炒令如砂) 天花粉(二錢) 人油(三錢) 白蠟(三兩)
烏賊骨(二錢) 麻油(一合)

右六味、先極煮麻油、試水中成珠子、即入蠟拌令相得、下火、候成白色、入餘藥、和勻煉成、貼瘡處。

(六三) 治諸結毒漏瘡不愈者方

銀花洗方

銀花(五錢) 遠志(二錢)

右二味、以水五合、煎取三合、洗患處、日數次。

(六四) 治諸結毒方

玉蒸丹

水銀(五分) 朴硝 綠礬(各二分) 戎塩(五分) 東朮肉(五分)...

... (一方、水銀、朴硝、綠礬(各三錢)、戎塩(五分)、朮肉(五錢))

右五味、合搗和調、一丸一分、以蜜蠟為衣、日服五丸、空心白湯飲下。

(六五) 右同

金花丹

絳礬 枯礬 水銀 硝石(各十錢) 棗肉(五錢) 青塩

右六味、先極研棗肉、內青塩少許令相得、嘗之以味差鹹為度。

次內絳礬研和、入水銀、細研不見星、枯礬硝石次第相和、此藥極煉益佳、一丸一分、蜜蠟為衣、每服一丸空心白湯送下、晝夜五次、大便如蚯蚓泥為知、盡止。

(六六) 治諸結毒者方

芎黃散 (吉益東洞方)

芎藭 大黃 (各等分)

右二味、為散、每服一錢、日二或三、食遠白湯送下、或溫酒亦佳也。丸亦佳也。

(六七) 治諸結毒、咽喉腐爛、目赤耳鳴、頭眩不能行步者。

伍室散

鍾乳石 (六分) 飛白麴 (三分) 琥珀 (三分) 龍腦 (一分) 辰砂 (三分)

右五味、極末、土茯苓二十錢、以水一升二合、煎取六合、去滓、三分取二合、內散二分、空心頓服、日三、忌塩酢辛臭等物。

(六八) 治諸結毒、下疳、骨節疼痛、淹不愈者方

輕粉丸

牽牛子 (二錢) 大黃 輕粉 (各一錢) 塩梅肉 (一箇)

右四味、為末、糊丸、茶末為衣、每服三分、日三、食遠白湯送下、不須嚼、以六日、為一劑、七日平旦空心服備急丹三分、

穢物當大下。凡施劑不_レ盡劑、隨病者強弱輕重、斟酌之、後方亦從之、此藥尤峻烈、慎而勿過用、服後口中腐爛者、銀花煎_ハ噲之。

(六九) 治諸結毒者方

五物解毒湯

假蘇(五分)

金銀花(一匁)

芎藭(三分)

藪菜(五分)

大黃

(二分)

右五味、以水二合、煎取一合、淹毒者加草薺一_レ莛甚良。……

……(假蘇ハ荊芥)

(七〇) 散結毒凝腫方

龍鱗膏

百草霜 松脂(各等分)

右二味、鉛和勻、攤紙貼患處。

陶(山陽東門)按、乳腫痛類用妙。

(七一) 療便毒合口後、核不消者方

消核散

虎杖

右一味、為末、每服一_レ莛、日一、夜一、白湯送下、温酒亦得。

(七二) 療服_下輕粉劑後、口中腐爛者_上方

銀花煎

金銀花(三钱) 黄柏 甘草(各一钱五分) 青黛 柘榴皮(各一钱)
右五味、以水五合、煎取三合、去渣、頻々噲之、日尽一剂。
……(一方、柘榴皮無シ)

(七三) 療痘瘡無險惡症、而難貫膿者方

參耆湯

當歸(二钱) 黄耆(一钱) 人蔘 生姜(各七分)

右四味、以水二合、煮取一合、日三剂、小兒以意減之。

(七四) 令癰疔潰膿方

排毒散 (即十伯州散)

石蟹(燒為霜) 反鼻(生補燒為霜) 好沈香 鹿角霜(各一钱)

右四味、各為末、每服五分或一钱、日三、白湯送下、温酒亦佳也。

(七五) 療臙瘡方

梅荊湯

楊梅皮(一钱) 荊芥(五分)

右二味、以水一合半、煮取一合、日二剂、數日後毒氣脹發、水出瘡乾而差。

(七六) 療癩疽方

雄鼠屎(尖者為雄)

右一味、為末、糊和勻、傳于患處、隨手愈。

(七七) 療_二鷺口瘡_一方

天南星

右一味、為末、和水令如泥、以薄紙貼湧泉、乾則又換。

(七八) 治_二床瘡_一方

南極散

天南星 鹿角霜 黃柏 括蔞根 (各等分)

右四味、為末、以水和調、敷患處。

(七九) 療_二諸瘡淹不愈者_一方

登假膏

茶毘處煤 麻油

右二味、合煮一時許、傅于瘡上、神驗。

(八〇) 療_二風犬毒_一方

救急湯

杏仁 (三錢) 桃根皮 (二錢)

右二味、以水二合、煮取一合、日二劑、別杏仁、葱白、但杵成泥、敷瘡口、灸數十壯、令口不合、甚妙也。

(八一) 又方

奪命散

斑蝥 (二枚去頭足、同糯米炒令黃色) 番木鱉 (三錢)

右二味、為末合調、食遠白湯或溫酒送下、日三劑、或吐毒物、或從小便去瘀毒及白脂等毒物、毒尽服之、乃不吐痢、小便清

349
589

白者為定、不再發矣、若服藥不吐、小便不出、毒物或從小便、通後、腹痛者、青黛、黃連末、冷水調服、二物能解斑痧毒、病愈後、百日內忌小豆、麻子、韭、蒜等物、餐庭氏傳、數試神驗。

(八三) 治厲風及諸血毒、兼療久淋一方

再造散 (龔廷賢方、新加反鼻)

反鼻 (六克) 鬱金 (三克半) 白牽牛子 (六克) 皂角子 大黃 (各五克)

右五味、為末、每服一錢、空心白湯送下、隨性多少。

山陽家八十二秘方終。

昭和十年十月十日印刷
昭和十年十月十六日發行

山陽家八十二秘方

定價壹圓五拾錢

校註並發行考



印刷者
印刷所

東京市渋谷区羽根町五十三番地
石原保秀
東京市千代田区谷町七土番地
宮木守太郎
東京市千代田区谷町八町七三番地
肥文堂

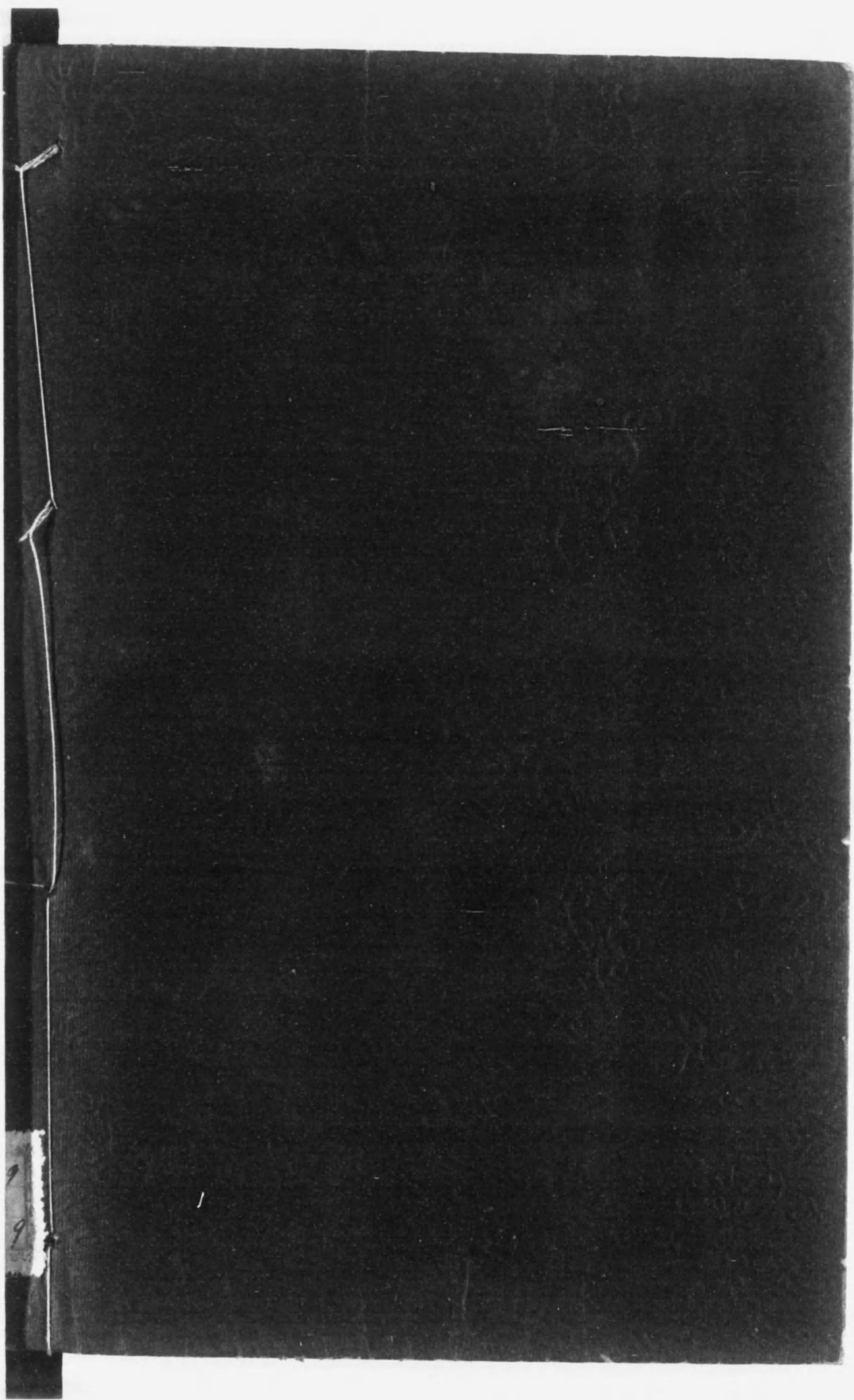
發行所

東京市渋谷区羽根町五十三番地

和漢醫學社

電話：青山(36)二三八三番
振替口座：東京三一三六九番

終



9
9